

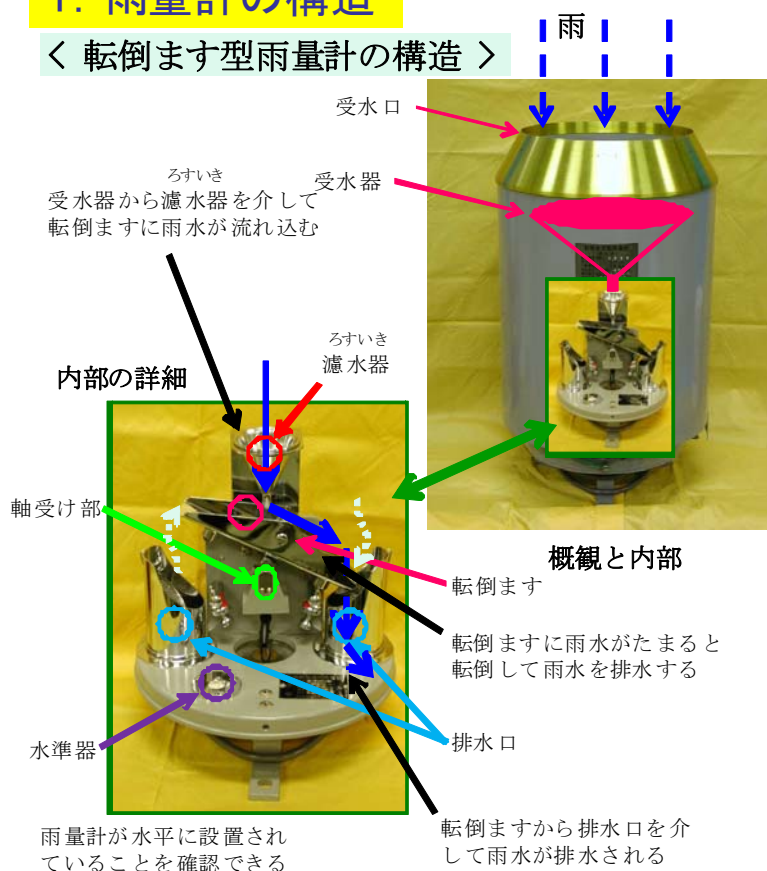
第2章 雨量計の障害事例と保守管理

気象観測機器は長期間屋外に設置するという性質上、自然環境による影響を絶えず受け続けることになり、様々な障害が発生する場合があります。このため、観測所の定期点検や日頃のデータ監視が重要です。

ここでは、最も利用されている「雨量計」について、気象台職員が経験した障害事例などを紹介しますので、貴観測所の保守管理の参考にして下さい。

1. 雨量計の構造

< 転倒ます型雨量計の構造 >



雨量観測において最も広く利用され、一般的なのが「転倒ます型雨量計」です。

口径20cmの「受水器」に入った雨水を「濾水器(ろすいき)」で受け転倒ますに注ぎます。転倒ますは2つの「ます」がシーソーのような構造になっており、降水量0.5mm又は1.0mmに相当する雨水が「ます」に貯まると反対方向に転倒します。その転倒数を電気信号に変換して伝送することで私達は「降水量」を知ることができます。